

2025

6

June
No. 388

広報

みしま

Mishima Town Public Relations



保小中合同運動会
「きずなスポーツフェスティバル」開催！

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。





▲ 笑顔でスタートする参加者



▲ 角田陽市氏の指導による準備運動

新緑の霧の景色を楽しむ！

今年で8回目を迎えた「桐の里ウォーク 2025」は、5月10日交流センター山びこをスタート・ゴールで開催され、385人が参加しました。

開会式で矢澤町長が「只見川に映える新緑を楽しんで歩いてほしい」とあいさつし、準備運動後、町長のスタートの合図で元気に出発しました。

参加者は、名入、宮下、荒屋敷、川井地区を經由する約8キロのコースで、雨上がりの霧の風景の中、町内の景勝地を眺めつつ、思い思いのペースで歩いていました。第2只見川橋梁が望める歳時記橋では、雄大な只見川沿いの景観を楽しんでいました。

コースの途中には、町観光協会の皆さんにより給水所が設けられ、多くの方がのどを潤しました。

ゴール後は、お楽しみ抽選会のほか、みしま特産汁、会津地鶏の焼き鳥など、三島町特産品のおもてなし料理がふるまわれ、料理と緑の景色を満喫していました。



▲ 新緑の景色の中を歩く



▲ 給水所で水分補給



▲ ゴール後にはおもてなし料理が振るまわれた



▲ ゴール報告する参加者

第2回

「きずなスポーツフェスティバル」 (保小中合同運動会) 開催

～きずなを深め、町を明るく、ハツラツ輝く三島っ子～



▲ 閉会式



▲ 町民も参加し、走り抜ける！



▲ 開会式



保小中合同運動会の第2回「きずなスポーツフェスティバル」が5月24日、三島中学校校庭で開催され、町民約200人が参加し、参加者の笑顔がはじけました。

「元気玉運び」や「天下分け目の綱引き」・「大きなかぶ式ダンシング玉入れ」・「三島っ子リレー」などでは、保小中の子どもたちと保護者が一体となって熱戦が繰り広げられました。

子どもたちが中心になって創り上げた「きずなスポーツフェスティバル」では、子どもたちの自主性を活かし、目標に向かってチャレンジする気持ちを育て、子どもと地域の方々との交流を深め、地域を巻き込んだ生涯スポーツの意識高揚と推進を図っていきたいと思います。



▲ 最後に全員で

『春の奥会津満喫』 ～山菜収穫体験講座開催～



▲ 好評の山菜弁当

5月16日、快晴に恵まれ新緑の中、山菜収穫体験講座が行われました。

このツアーは JR 東日本「大人の休日倶楽部趣味の会」会員を対象とし、JR 東日本びゅうツーリズム&セールスが企画・催行しました。令和4年度に続き3回目の開催となります。

町民センターで菅家三吉さん（荒屋敷）から山菜の見分け方、摘み取り時のルールとマナーなどの山菜講座を受けた後、SampSon 特製の山菜づくしのお弁当を堪能しました。昼食後には菅家三吉さん所有地でわらび、うど、うるいなどの収穫体験が実施され、ツアー参加者は都会ではできない体験を楽しんでいました。

参加者からは「三島町の現況もあわせ、自然環境や山菜の生育状況を知ることができた」「地元の食材、山菜料理のおもてなしを感じる『丁寧なお弁当』ご馳走様でした」などの感想も寄せられ、大変好評なツアーとなりました。

町としてもこの自然の恵みに改めて感謝し、貴重な地域資源の活用例として今後も期待しています。

まちの話題

町にご寄附いただきました



▲ 左から板橋康宏常務、田中智仁代表取締役、矢澤源成町長

5月13日に滝谷建設工業(株)田中智仁代表取締役が来庁され、町長室にて、寄附がありました。



▲ 左から佐藤岩男代表取締役社長、矢澤源成町長、佐久間源一郎会長、吉田伸明取締役副社長

5月22日に佐久間建設工業(株)佐藤岩男代表取締役社長ほか来庁され、町と、日本赤十字社に対し町長室にて、寄附がありました。

春の旅のおもてなし 旅行客への三島町 PR 活動

三島町の PR と特産品等の販売を兼ね、JR 東日本(株)や会津鉄道(株)等と協力し、春の列車旅行を楽しむお客様におもてなしを実施いたしました。

5月3日は、JR 只見線会津柳津駅から会津川口駅まで「風っこ只見線満喫号」で、5月17日は、会津鉄道西若松駅から会津田島駅まで「お座トロ展望列車」に乗車して、奥会津の特産品の販売や三島町の PR 活動を行いました。

そのほか、会津宮下駅を通る列車についても、お客様のお出迎とお見送りを実施しており、三島町の特産品や町のイベントなどの宣伝活動を行うことで、会津を訪れる観光客に三島町のよさを知っていただきました。



▲ 5/3 ④風っこ只見線満喫号でのおもてなし



▲ 5/17 ④お座トロ列車での物販及び PR 活動



町民記者通信

【桧原】（4月26日）春神楽

阿部 和彦さん

春恒例の「柳津藤の和神楽」として桧原地区の下組と上組の2ヶ所で寄席が行われ、多くの人達が来場しました。午前8時30分に獅子入れをし、お札が配られ、無病息災と五穀豊穰・地区の安全と無事を願い、春を告げる神楽の音を響かせながら各戸を回ってもらいました。

今年は天候にめぐまれ、下組では屋外で踊りや曲芸が披露されました。

さまざまな演目に観客の皆さんも笑いと拍手が止まらないくらいの素晴らしいステージで、穏やかな4月末の土曜日、桧原地区の人々にとって春の訪れを感じる事ができる楽しいひと時でした。



【滝原】（4月27日）春の人足

佐久間 絹江さん

4月27日、冬期間、雪に覆われていた、農道、参道の清掃、点検整備を行いました。

滝原林業センターから8時に開始し、いつも以上の大雪で、倒木や大量の枝や落葉がありましたがみなさん手際良く作業を行っていました。

終了後は、作業を労う慰労会が開かれました。



【早戸】（4月27日）久しぶりの「花見の会」を開催

橋本 光五郎さん

コロナ禍で開催を見送っていた早戸地区での「花見の会」が、4月27日に久しぶりに開催されました。

佐久間一男区長の挨拶の後、五十嵐登美雄氏の乾杯の音頭で会が始まり、新たに転居されてきた方の参加も得て、みなさんいろいろな話題で会話にも花が咲き、楽しい会になりました。お酒を飲む方が少なかったのが個人的には少し残念でしたが、当日はちょうど早戸生活改善センター周辺の桜が満開で天気も良く、気持ちの良い会になりました。



【西方】（4月29日）春の人足で村道や側溝を守る

本名 与四郎さん

西方地区の春の人足は、4月29日の午前8時30分より正午近くまで行われました。

当日はあいにくの雨模様の天候となりましたが、14組の隣組はそれぞれ決められている人足箇所の作業に汗を流しました。隣組によっては、参加人数が少なく、隣組同士が協力し合う場面も見られました。今後、ますます高齢化が進み人足の継続が危惧されます。

作業途中に休憩をはさみ、巣郷地区の五十嵐正一さん宅を道なりに上がって行くと今でも使用されている貯水槽があります。その近くに銭森長者の祠がひっそりと苔生して静かに佇んでありました。20年前ぐらいまで、信心深い地区民は、だんごや生花など供えて手を合わせていたと言う話を聞くことができました。また、祠周辺には当時の大判や小判が埋葬されているという話で盛り上がりました。

今では村道を歩いて山林の管理や田畑の仕事をする人も少なくなり、積雪も多かったために、倒木が道をふさいでいる箇所も多くありました。そのため、チェーンソーで人が動かせるほどの長さに切って移動していました。村中人足を通して、地区の方々の絆や交流の大切さを感じた半日となりました。



「先人の 苦勞かみしめ 路守る」
「アナログの 世間話が 心地よい」

【桧原】（4月29日）春の奉仕作業

阿部 和彦さん

小雨がパラつく中、春の奉仕作業が早朝6時より、多くの住民協力のもと、約2時間実施されました。

地区内の側溝の土砂上げ作業を中心にを行い、その後春日神社の冬囲い外しと境内の清掃が行われました。

「高齢化が進むなか、作業内容も大変になってきた」との声も出てきましたが、それでも多くの方々が地区の美化のために参加し、消防団桧原班4名も土砂上げ後の路面をポンプ車で放水し、細かい汚れを流してくれました。

作業でひと汗かいた後、参加者はきれいな道路を見て、皆清々しい気持ちで解散となりました。



【滝原】（4月29日）ボランティアごぶしの会総会と国道ゴミ拾い

佐久間 絹江さん

小雨と、時折強風の吹く中、国道上下線を男女に別れ、安全に細心の注意を払いながらゴミ拾いを実施しました。

連休に入ったこともあり、いつも以上の交通量に互いに声を掛け合いながら、手の届く斜面のゴミも収集しました。

今回はドライバーのマナーが向上したのか、ゴミの量も少なく、とてもうれしい作業となりました。

終了後は花見も兼ね、お弁当を囲んで親睦を深めました。



駒形神社前の紅白の花桃が満開となりました。▲

【宮下】（5月3日）花いっぱい運動の実施

小島 純さん

「明るく美しいまちづくり」を推進している宮下地区では、連休開始の5月3日、宮下活性化センター周辺、ほか宮下地区各所の花壇等の花植え作業を、地区住民約40名の参加により実施されました。

参加者は宮下駅前の花壇、サイクリングロード、大膳広場などへの花植えに汗を流しました。

前日には、部落委員会が町内全戸（各事業所にも）に花苗3株と培養土1袋を隣組長宅に届け、各世帯での植栽をお願いしました。



◀センター前花壇植栽風景



【西方】（5月5日）子どもの健康、成長願う鬼子母神祭

本名 与四郎さん

鬼子母神例大祭は、5月5日に西方地区の西隆寺と岩倉山鬼子母神本堂で行われました。

鬼子母神本堂は標高540メートルほどの岩倉山頂上にあり、インドの故事に由来する子授けと安産、幼児保護の神様といわれています。明治初め頃、当時の庄屋さまの家の人が重い病気にかかり、回復の見込みがない中、ある日の夢に鬼子母神さまが現れ「私を信仰せよ」と語りかけられ、一生懸命にお祈りを捧げたところ、病気が良くなったそうです。庄屋さまはこれに感謝して、霊山として親しまれていた岩倉山にお堂を建立したと伝えられています。

今年は強い風が吹き、肌寒い天候となりましたが、町内外から百名以上の参拝客が訪れ、お札やお守りを買って求める姿が見られました。

参拝者の中には、古いお守りを御焚きあげとして戻し、新たにお守りを買って求めていました。また、NHKの職員が鬼子母神祭の取材に来訪し、参拝者の家族連れなどにインタビューし、当日の夕方には放映されました。

最近では見るができなくなった大神楽の団が鬼子母神例大祭にあわせて訪れ、西隆寺境内では、太鼓や笛の音に合わせた軽快な神楽を見学しに大勢の地区住民などが参集し、心地よいリズムと踊りを楽しんでいました。



「子宝に 効き目がありそう 鬼子母神」
「懐かしき 見せ場をつくり 神楽舞う」

【桧原】（5月11日）ボランティア桧原「美化活動」

阿部 和彦さん

今年もボランティア桧原会員 20 名による美化活動が行われました。町道から県道、国道約 4 km を 3 グループに分かれてクリーンアップが実施されました。

開始前に事務局から作業の手順の説明等が有り、集会所からそれぞれのコースに出発しました。

燃えるゴミ 3 袋、不燃ゴミ 1 袋と年々ゴミの量が減少し、環境に対しての美意識が高まってきていて大変喜ばしいことと思います。活動途中、道路脇の菜の花畑がとてもきれいで心を和ませてくれました。また、夕方 6 時から令和 7 年度の総会（14 名出席）が開催され、昨年度の活動報告・決算報告、新年度の活動予定並びに予算案、新役員が承認されました。

慰労会では今年度も皆で楽しく活動していきたいと話が盛り上がりました。



【宮下】（5月17日）健康ウォークと懇親会

小島 純さん

5月17日、宮下地区と宮下分館共催のもと、約 20 名の地区住民が参加し、「健康ウォークと懇親会」が開催されました。

あいにくの雨天のため、ウォーキングは取り止め、活性化センター内での輪投げゲームが実施されました。

ゲームは簡単そうにみえて、なかなか狙ったところに輪が入らず、悪戦苦闘しながら楽しみました。

ゲームの後は、バーベキュー会が開かれ、用意された肉やビール、ジュースが振る舞われ、参加者は楽しく交流を深めました。



▲ バーベキューを楽しむ参加者

【間方】（5月18日）「棚田お田助オーナー」田植え行われる

菅家 寿一さん

5月18日宮ノ前地区において、オーナーや町内外のお田助隊 13 名が駆け付け、田植えが行なわれました。今年度のアカデミー生も体験参加しました。

間方地区では、圃場整備後に 80 枚程となった田んぼを耕作していましたが、高齢化や採算が合わない等により、耕作している田んぼは 12 枚になってしまいました。美しかった里山の景観が損なわれるとともに、昔は居なかったイノシシが、田んぼを荒らしています。

このため、地区外の方々の力をお借りして、楽しみながら美しい景観を守っていただくとともに、自分でつくったお米やマコモダケを美味しく食べていただくよう実施しているものです。

田んぼの角や小さい田んぼに、ヒトメボレとコガネモチを植えていただき、小さい範囲ですが、今年も美しい景観を見ることができ、感謝・感謝です。

田植え後には、お祝いの^{さなぶり}早苗饗もささやかに済ませました。

寄せ刈りや稲刈りや稲抜きも、多くの方にお田助けいただき実施する予定です。

7月上旬には虫も見られます。ぜひお出でください。



【宮下】（5月20日）三島町商工会通常総会開催される

小島 純さん

三島町商工会（五十嵐健二会長）の令和7年度第64回通常総会は5月20日、33名の出席のもと、三島町商工会館で開催されました。

五十嵐会長のあいさつの後、永年勤続優良従業員表彰が行われ、滝谷建設工業㈱2名、佐久間建設工業㈱2名、羽賀建設工業㈱1名の計5名の勤続10～17年の方々が表彰されました。

来賓5名の祝辞の後、総会に入り、議長に菅家三吉さんが選任され、議事に入りました。

総会に上程された第1号から第3号議案が慎重に審議され、全て承認されました。



【滝谷】（5月20日）滝谷和楽塾

目黒 民一さん

滝谷和楽塾では、5月20日に15人の参加で白河フラワーワールドとダルマランドなどに行ってきました。

フラワーワールドにはネモフィラ、ルピナスと混植の花が植えられて、とてもきれいでした。

ダルマランドでは、張り子作りの様子を見学しました。また、店舗にはバラエティ豊かなダルマが所せましと陳列してありましたが、特にネコ顔のダルマが印象に残りました。

その後は皆さん楽しみな昼食となり、生そばと親子丼のセットを美味しくいただきました。

帰路では、道の駅季の里天栄やあいづ湯川・坂下にも立ち寄り、お土産もたくさん購入し、和気あいあいと帰りました。



今年も町内の菜の花がきれいに咲きました。！

今年も町内各所の菜の花がきれいに咲いていました。



▲ 三島小学校前の菜の花



▲ 川井地区の菜の花



▲ 桜原地区の菜の花

生活工芸アカデミー(第8期)開講式!!

生活工芸技術の習得並びに自然との共生やものづくりの精神を学ぶ場である「三島町生活工芸アカデミー(第8期)」の開講式が、4月24日生活工芸館で行われました。

今期は3名の受講生を迎え、今後の三島町生活工芸運動の発展に寄与してくれることが期待されます。

左から
 堺三枝さん(福岡県)
 丸山音羽さん(磐梯町)
 田澤陽子さん(東京都)



問 生活工芸館 ☎ (48) 5502

中学生森林環境学習

5月19日、三島中学校1年生を対象に森林環境学習が行われました。学習の内容は三島町が誇る会津桐です。畑や桐タンス(桐)を巡りながら、会津桐の歴史や桐タンス等の製造工程を学ぶと共に、桐産業が現在おかれている課題についても知る機会になりました。

こうした学習をとおして、自分たちの生活する三島町での森林との関わりについて、こどもの時から意識を醸成していくことが重要だと考えます。

(記事 地域おこし協力隊 茂田 龍揮)



▲【生徒】 五十嵐悠月さん、布川琉生さん

図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

● 図書の紹介

● 利用時間

月～金 午前9時～午後9時
 土・日・祝 午前9時～午後5時

● お休み
 年末年始

● 今月のおすすめ

人魚が逃げた

青山 美智子 著

物語の核となるのは、「王子」と名乗る青年が、SNSで拡散された「人魚が逃げた」という発言。その一言をきっかけに、銀座を舞台に様々な登場人物が織り成すストーリーが展開される。

それぞれの短編は独立した物語でありながら、登場人物同士が微妙にリンクしており、最終的に一つの大きなテーマに結びついていく。



モノのなまえ事典

文 杉村 喜光
 絵 大崎 メグミ



大人も知らない みのまわりの謎大全

ネルノダイスキ 著



今日にかぎって

作 樺島 ざくる
 絵 奥野 哉子

問 公民館 ☎ (48) 5599

懐かし写真展「昭和の三島町」開催中

懐かし映像上映会（5月17日）実施

交流センター山びこでは、懐かし写真展「昭和の三島町」と題し、細堀貫一氏や元町長の故齋藤茂樹氏といった町内の写真愛好家が撮影した昭和10年～50年代までの写真を200枚以上展示しています。また昭和43年に当時の町の小中学校教職員や役場職員によって製作された8mmフィルム映画「失なわれゆく民俗行事」もデジタル化し繰り返し上映しています。

また5月17日には、昭和42年に当時の役場職員によって製作された8mmフィルム映画「みしまー三島町合併十年の歩みー」の上映会を山びこにおいて開催、町内外から約30名の方が鑑賞に訪れ、懐かしい町の映像に魅入っていました。

写真展は6月22日⑩まで開催しておりますので、ぜひ一度足をお運びください。



▲ 懐かし写真展示風景 ▲



▲ 懐かし映像上映会

元三島町議会議員故長谷川清雄氏 叙勲伝達式

5月20日に、町長室において、元三島町議会議員である長谷川清雄氏の死亡叙勲伝達式が、実施されました。ご遺族の長谷川哲央氏（ご子息）に対し、福島県会津地方振興局長今野一宏氏より、勲章と勲記が授与されました。



▲ 左から矢澤源成町長、長谷川哲央氏、今野一宏福島県会津地方振興局長

功 績	発 令 叙勲（旭日単光章）
	町議会議員（平成24年5月～令和6年5月）
	※通算3期 12年在職
	産業厚生常任委員会副委員長 （平成24年5月～平成28年5月）
	総務文教常任委員会委員長 （平成28年5月～令和2年5月）
	産業厚生常任委員会副委員長 （令和5年1月～令和6年5月）
会津若松地方広域市町村圏整備組合議会議員 （平成24年5月～平成28年5月）	

五十嵐勝男氏 納税功労者知事表彰受章

5月19日、五十嵐勝男氏（宮下商業納税貯蓄組合長）が、5月15日に福島市杉妻会館において福島県知事より納税功労者知事表彰を授与されました。

その後、5月19日に、町長へ受章報告をされました。



▲ 内堀雅雄福島県知事より表彰を受ける五十嵐勝男氏

功 績	宮下商業納税貯蓄組合長 （平成19年4月1日～現在）
	三島町納税貯蓄組合連合会会長 （平成28年6月7日～現在）
	会津若松地区納税貯蓄組合連合会理事 （平成28年6月7日～平成30年3月31日）



元教育委員阿部和彦氏

福島県市町村教育委員会連絡協議会功労者表彰



▲ 左から矢澤源成町長、阿部和彦氏、山口浩教育長

阿部和彦氏が、福島県市町村教育委員会連絡協議会功労者表彰を受章され、5月23日に町長室において伝達式が行われました。

阿部和彦氏は、平成22年から令和6年までの14年間にわたり、三島町教育委員会の教育委員を務め、うち2年間は委員長として重責を担い、自らの仕事と両立しながらも、地域の教育振興と学校教育の質の向上に尽力し、教育行政における公平性と持続可能性の確保に努めてこられました。

宮下病院より

宮下病院 薬剤部長 柳沼 俊彦

「エピペン」という薬について紹介します。

エピペンは、ハチ刺され、食物アレルギーなどが原因で、急に呼吸が苦しくなったり意識が遠のいたりするような場合に、ご自身で注射できるお薬です。エピペンは気道を広げて呼吸を楽にし、血圧を維持するなどの効果があります。

重篤なアレルギー反応（アナフィラキシー）は進行が早く、命に関わることもあります。救急車がすぐに到着しない山間部では初期対応が特に重要になります。エピペンが必要かどうかは医師の診断が必要です。アレルギーの症状がある方や過去にアナフィラキシーを起こしたことがある方、山に入る機会が多い方は、ぜひ一度医師に相談してみてください。もし処方されたら、ご本人だけでなく、ご家族や周りの方も使い方を理解しておきましょう。

地域おこし協力隊

活動誌

最後の協力隊活動誌

西田 星弥

地域おこし協力隊の西田です。タイトルのとおり、今回で最後の地域おこし協力隊活動誌となります。

三島町に着任してから気がつけば3年の月日が流れました。

多くの方々に支えていただき深く感謝申し上げます。

協力隊の活動を通じて、町の発展に微力ながら貢献できたことを誇りに思います。

私が担当していた業務については、担当事業者へ引き継ぎを行います。

大きな成果を残すことはできなかったかもしれませんが、これまでの取り組みが少しでも三島町の未来の助けになれば幸いです。

残された任期も全力を尽くし、有意義な時間にと考えておりますので、最後まで温かく見守っていただければと思います。

三島町での生活は私にとって多

くの初めての経験が多くありました。

特に降雪地域での生活は新鮮で、雪景色の美しさや冬の厳しさを実際に体感することができました。

退任後については以前からお伝えしているとおり、ホームページ制作や動画制作の分野で地域の支援を続けていく予定です。何かお困りの際は、ぜひお気軽にご相談ください。

改めて3年間、支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

これからも三島町がさらに活気ある町になることを願いながら、新たな挑戦に向かって進んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。



工人の館でイベント開催 —てしごとマルシェ KISSE—

工芸館だより④9 くものづくりの伝承

先月の5月3・4日(土・日)に工人の館にて、てしごとマルシェ「KISSE」が開催されました。

このイベントは年2回奥会津の作家や飲食店が出店しており、今回で4回目の開催となりました。回を重ねるごとに来館者数も増え、にぎわいを見せています。

工人の館は、編み組細工等の制作が行える施設です。工芸制作を利用する目的として部屋や備え付けの道具を貸し出ししています。イベント、ワークショップでの会場貸し出しなども可能です。

町民および特別町民の方が利用でき、利用料は無料です。開館日時は、生活工芸館と同様です。見学も可能ですので気軽にお立ち寄りください。



▲ 会場内①



▲ 会場内②

* イベント、ワークショップの開催につきましては、生活工芸館にご相談ください。

☎ 三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

▶ カフェ



▶ 看板

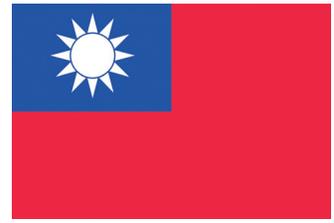


令和7年度 台湾交流事業が実施されました!!

テレサ・テン交流事業

町特別町民故テレサ・テン氏没後 30 年となった5月8日、台北郊外の墓で追悼式が開かれ、小堀副町長が献花し、墓前で手を合わせました。

テレサ氏の親族の方や、日本デビューを実現させた舟木稔さん、そして多くのファンの方々が駆けつけられ、ファンクラブの代表の方は、三島町との連携交流事業にも意欲をみせていました。



鄧麗君（テレサ・テン） 記念公園



▲ フランク氏(テレサ氏実兄_中央)



▲ ジェニファー氏 (テレサ氏姪_中央)



▲ 献花し、墓前に手を合わせる小堀副町長



▲ 取材を受ける小堀副町長



▲ 参加者との記念写真

台湾工芸交流事業

令和5年度、国立台湾工芸研究発展センターと交流協定が再締結され、また、雲林科技大学とは新たに交流協定が締結され、これまでの三島町と台湾との友好交流関係をさらに深め、ものづくり技術の交流をとおして双方の限りない発展を願い、相互交流を目指して行われています。

国立雲林科技大学

台湾雲林県にある、国立の科技大学である雲林科技大学を訪問し、新たに交流協定を締結し、ものづくり技術の交流をとおしてさらなる友好交流をめざしていきます。

三島町との共通した環境にある当該大学との連携で「ものづくり」という交流だけでなく、「地方創生」の分野でもお互いに学びあっていることと期待しております。



雲林県立樟湖生態国民中小学校

「発育」の分野での国際交流を視野に少子化という共通した課題に向き合って成果を上げている「雲林県立樟湖生態国民中小学校」を訪問しました。

山間部のこの学校の生徒数は10数人まで減少したが、企業の仕組みを取り入れ、地方創生を目指す革新的、挑戦的な教育プログラムを実施しており、山間部の生徒数減少に苦しむ学校から、世界から教育内容が注目される学校へと変革を遂げた魅力的な学校であります。

今後、本町の教育機関との連携を図りながら、新たな台湾交流のひとつとして、山間部の教育現場からの地方創生の可能性を築くことを願います。



今後の台湾交流の予定



- | |
|--------------------------------|
| ①ふるさと会津工人まつり（6月7日～8日）への出店 |
| ②国立雲林科技大学からのインターン受入（7月～8月） |
| ③台湾工藝衆への参加（会場：宜蘭（イーラン））（8月29日） |
| ④雲林県立樟湖生態国民中小学校への訪問8月） |
| ⑤アジアデザイン文化学会の三島町開催 |

- 国立台湾工芸研究センターおよび国立雲林科技大学からは昨年度に引き続き、「ふるさと会津工人まつり」への出店が予定されており、町内に宿泊します。
- 7～8月にかけて、国立雲林科技大学の学生（2名）が「自然のものを活かした工芸」、「地方創生（まちづくり）」を学ぶためにインターンとして三島町に1ヶ月ほど滞在する予定です。
- アジアデザイン文化学会の令和7年度開催場所として、三島町が候補にあがっています。

日本や台湾をはじめ、アジア各国から100人規模の参加が見込まれる学会です。

【その他】台湾から生活工芸を学ぶツアーとして、工芸品の材料採取の時期に合わせ、参加者の受入を例年行っています。

これからの季節に備える！梅雨・台風シーズンの防災ポイント

三島町のみなさま、こんにちは。6月に入り、梅雨の季節がやってきました。実は地球温暖化は大雨にも影響を及ぼします。今回は豪雨などによって激甚化する水害への備えについてお話しします。

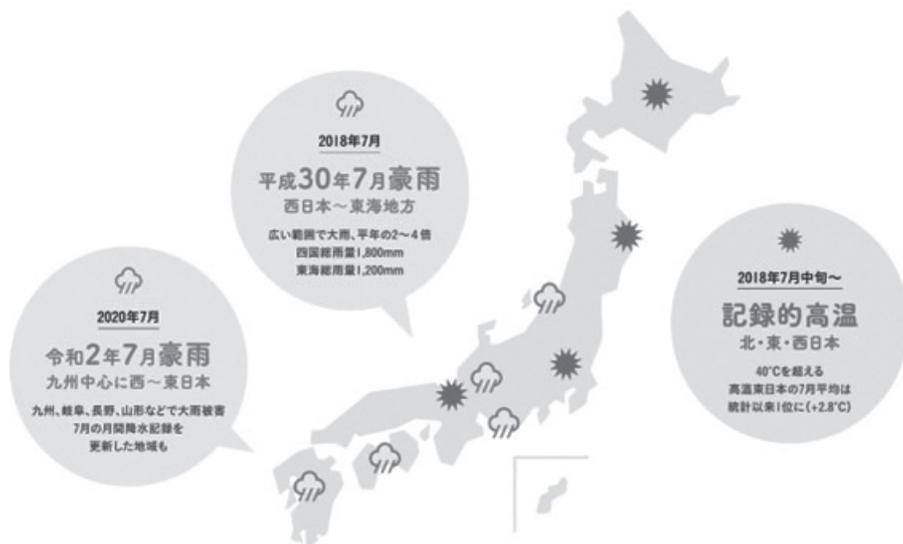
地球温暖化は大雨にも影響する

地球温暖化が気温を上昇させる、というのはみなさんもイメージが付きやすいと思いますが、その気温上昇が大気中の水蒸気量を増加させ、これまで以上に短時間で大量の雨が降る「線状降水帯」や「ゲリラ豪雨」などの発生リスクを高めています。実際に、令和元年（2019年）の台風19号では東日本一帯で記録的な大雨が降り、福島県でも阿武隈川が氾濫するなど、中通りを中心に甚大な被害が発生しました。郡山市ではこの台風19号による市内の企業等の被害額が約647億円に上ったと2020年10月9日付の朝日新聞で伝えられています。

梅雨の時期は前線の停滞や台風の影響で長時間にわたる豪雨が発生しやすく、特に7月・8月は台風シーズンに入るため、災害への備えがこれまで以上に重要です。※ほかにも大規模な災害・異常気象が日本で相次いでいる（環境省「ecojin」より）

防災マップを確認しよう

例えば全国各地の土砂災害の発生状況を見てもみると年々増加傾向にあります。平成26年（2014年）から令和5年（2023年）の直近10年間では、1年間に平均およそ1,499件の土砂災害が発生しており、平成16年（2004年）から平成25年（2013年）の10年平均（約1,184件）に比べ、約1.25倍に増加しています。令和5年（2023年）も1,471件と、高い水準です。



こういった災害に備えて、防災マップをチェックすることがとても大切です。自宅にある防災マップを開き、自宅や職場周辺の「土砂災害警戒区域」や「浸水想定区域」を確認し、近くの避難先もチェックしておきましょう。三島町の防災マップには洪水や土砂災害だけでなく、大雪や火事、地震への対策や備蓄品、避難行動についてなど、詳細にわかりやすくまとめられています。防災マップが手元に無いという方は三島町のHPでも閲覧できます。

※三島町「三島町防災マップ2024を公表します」<https://www.town.mishima.fukushima.jp/soshiki/soumu/263.html>

災害はいつ誰の身に起こるかわかりません。「自分は大丈夫」と油断せず、防災マップや情報収集を通じて、家族と地域全体で備えを進めていきましょう。

【参考文献】

朝日新聞「台風19号 郡山市内の企業、被害額は647億円」<https://www.asahi.com/articles/ASNB86QL3NB8UGTB009.html>

環境省「猛暑や大雨によって起こる災害にどう備える？気候変動の観点から、防災について考えてみよう」

<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20231004.html>

政府広報オンライン「土砂災害から身を守る3つのポイント あなたも危険な場所にお住まいかもしれません！」

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201106/2.html>

●国立環境研究所福島地域協働研究拠点 地域環境創生研究室 ☎0247 (61) 6572

筆者 常盤 達彦

町史編さん室だより

第113回

写真で見える戦中の宮下 〜桐下駄工場〜

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。

☎(52)2165

交流センター山びこでは「懐かし写真展『昭和の三島町』」と題し、昭和10年代から50年代までの200点以上の写真を展示中です（6月22日まで）。今回はその中から、昭和14年〜16年頃（1939〜1941）に撮影された宮下の桐下駄工場の写真を3枚掲載しました。

さて、『企業許可令第七条ニ依ル事業報告書』（宮下村役場、昭和17年、以下『報告書』）によれば、当時の宮下では5つの事業所が下駄の製造販売を行っていました。開業時期は古い順から明治40年3月（1907）、大正10年（1921）2月、同10年3月、昭和5年1月（1930）、同14年5月となっています。なお桐下駄がいくつも積み重ねられている写真は、福田桐材店の法被が確認できることから、『報告書』に明治40年3月に開業したとある福田仙吉氏の桐下駄工場だと考えられます。

会津地方における足駄材（下駄材）の経済的な生産活動は、『会津桐の沿革』（福島県林務部、昭和29年）によれば、明治30年代に西方の磐城屋が新潟から足駄職を招いたことではじま

たと云われているとあります。また、明治時代に会津地方の桐の植栽に尽力した西方の小松中正氏の遺稿（昭和10年の挨拶文）には、大正3年（1914）の岩越線（現在の磐城西線）開通以前に東京に山取下駄材を出荷していたのは、大沼郡では自分だけだと書かれています。そのほか、小松源治氏の中正氏への追悼文によれば、昭和15年（1940）時点で、中正氏は50有余年の長きにわたり桐下駄種の製造販売を行ってきたとあります。

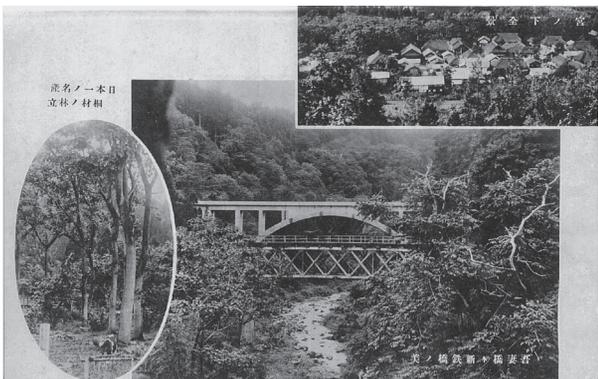


細堀貫一氏撮影 宮下の桐下駄工場



『報告書』を含め、いずれも昭和になつてから書かれたものであるためか、下駄材の製造や出荷のはじまりの時期について違いがあります。これらの記述をある程度正確なものと捉えるなら、現三島町域における桐下駄の製造及び出荷は、早くも明治20年代から、事業所が本格的に増えていくのは大正3年の岩越線全線開通以降といえるでしょうか。

（町史編さん室）



昭和20年前後か 宮下商業組合青年隊発行絵葉書
吾妻橋、鉄道橋と桐材の林立

町民福祉講座 「みんなでつくる ①だんの②らしの③あわせ」

高齢化率の高い三島町では、「介護」や「福祉」は大変身近な話である一方で、いざという時にどのように対応していいのかは、意外と分からない事も多いのではないのでしょうか。町では、日ごろ相談の多い内容や、皆さんに知っておいていただきたい内容をまとめて、以下のプログラムで「ふくし講座」を実施いたします。

講座一覧

いずれ年をとる自分のために学んでおきたい
妻や夫、父や母のために聞いておきたい、
高齢者が多い町だからこそ知っておきたい、

人生の予備知識として知っておいたほうが良い、
高齢期の生活に安心を添える方法をみんなで一緒に学びましょう。

関心がある講座のみの参加でも可能です。

日 程 (予定)	講 座 内 容
6月19日(木)	「知って納得！介護保険制度」
7月29日(火)	「認知症世界の歩き方」
8月29日(金)	「安心・安全な住環境づくり 福祉用具を体験しよう」
10月27日(月)	「高齢期の身体の変化と生活の注意点を学ぶ」
11月18日(火)	「医療機関との上手な付き合い方」
12月 5日(金)	「介護における『こころ』の健康」
2月27日(金)	「ふくしの地域づくりを考えよう」

問 地域包括支援センター ☎ (48) 5045

水生生物調査に必要な教材を無償提供します！

福島県環境創造センターでは、身近な河川等での水生生物による水質調査を通じて、水環境に親しんでもらうため、毎年せせらぎスクール推進事業を実施しています。市民団体等に参加を呼び掛け、申し込まれた団体等に対し水生生物調査に必要な資材を無償で提供しています。

詳細はホームページをご覧ください。



問 福島県環境創造センター ☎ 0247 (61) 6129

コミュタン福島 『ギモン★ハンター』が開催されます

「コミュタン福島」オープン9周年を記念して、イグノーベル賞受賞の研究者を招いたトークライブや「のりのり&ひなひな」によるサイエンスショー、普段入ることができない当センターの本館・研究棟に潜入し、研究員等との対話・交流を行う体験イベントなど、子どもたちが自ら疑問に思うことを探し、楽しみながら答えを見つけるイベントを開催します！



詳細はコミュタン福島ホームページを御覧ください。

日 時	7月19日(土)・20日(日) 午前9時～午後5時
会 場	福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」
参 加 料	無料
問い合わせ先	コミュタン福島 ギモン★ハンター運営事務局 ☎ 024(932)2232 https://com-fukushima.jp
	<input type="button" value="HP"/> <input type="button" value="コミュタン福島"/> <input type="button" value="検索"/>



「ポリテクセンター会津」 8月開講の職業訓練及び見学会のご案内

訓練生募集

募集コース	【テクニカルオペレーション科】 機械CAD・生産サポートコース（※リニューアルコース） ビジネススキル講習付 【電気設備技術科】 電気設備技術コース ビジネススキル講習付
募集定員	6名（2コースあわせての定員です）
訓練期間	2025年8月1日（金）から2026年2月27日（金）まで（7ヶ月間）
対象者	公共職業安定所に求職登録されている方で、職業訓練の受講が望ましいと判断された方
受講料	無料
募集期間	2025年6月12日（木）～7月10日（木）まで
選考日	2025年7月14日（月）
●訓練のお申込み	最寄りのハローワーク窓口でお申し込みください。

施設見学会

開催日時	毎週（水） 14:00～15:45（13:30受付開始）
内容	・当センターの「職業訓練」について理解していただくことを目的として、毎週開催しています。 ・見学後には訓練体験ができます。 ・見学会申込みは、最寄りのハローワークまたは ポリテクセンター会津へご連絡ください。

☎ ポリテクセンター会津 訓練科 ☎ 0242 (26) 0520 FAX 0242 (26) 1585

自衛隊員採用情報

募集種目	航空学生	一般曹候補生	自衛官候補生
資格	【海】18歳以上23歳未満者高卒 又は高専3年次修了者（各見込含） 【空】18歳以上24歳未満者高卒 又は高専3年次修了者（各見込含）	18歳以上33歳未満の者 （32歳の者は採用予定月の末日現在、33歳に達していない者）	
受付期間	令和7年7月1日～8月29日	令和7年7月1日～9月2日	令和7年7月1日～9月2日
試験期日	1次試験 9月20日、27日 （いずれか一方の1日） 2次試験 10月16日～23日 （うち1日） 3次試験 【海】11月21日～12月17日 【空】11月15日～12月18日 （各うち1日）	1次試験 9月13日～21日 （うち1日） 2次試験 10月11日～10月26日 （うち1日）	筆記試験・口述・身体検査 受付時にお知らせします。
試験場所	1次試験申込時にお知らせします。		試験申込時にお知らせします。

【応募先・詳しいお問い合わせ先】

自衛隊福島地方協力本部 会津若松出張所

〒965-0825 会津若松市門田町大字黒岩大坪57-1 ☎0242-27-6724

会津坂下警察署からのお知らせ

ゴミの処分はルールを守ろう! STOP! ゴミの焼却!!

◆ 廃棄物の焼却禁止

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下廃掃法）では、

- ・ 各種廃棄物の処理基準に従って行う廃棄物の焼却
- ・ 他の法令又はこれに基づく処分により行う廃棄物の焼却
- ・ 公益上もしくは社会の習慣上やむを得ない廃棄物の焼却又は周辺地域の生活環境に与える影響が軽微である廃棄物の焼却として政令で定めるものを除いて、廃棄物を焼却することを禁止しています。

◆ 罰則

廃掃法を守らないと、5年以下の懲役若しくは1,000万円以下の罰金、またはその両方の処罰を受けることになります。

また、企業などの法人が違反した場合の処罰は3億円以下の罰金となります。

焼却禁止に含まれないもの

廃掃法の焼却禁止から除外されるものの例として、農業を営む方が稲わらを焼却する場合や、歳の神などの地域行事によるしめ縄や門松の焼却、たき火やキャンプファイヤー等を行う際の木くずの焼却などがあります。

しかし、これらに該当する場合であっても、ビニール等の他の廃棄物を一緒に焼却した場合には、廃掃法違反に該当します。

また、火をつける際には、いつでも火を消せるように消火の準備を事前に整えておき、いつでも火を消せるように燃えている間は火から目を離さないようにしましょう。

近所の人の迷惑にならないよう時間帯や風向きなどにも十分注意しましょう。

☎会津坂下消防署 三島出張所
☎ (52) 3032 / FAX (52) 3033

消防署からのお知らせ

～危険物は、正しい保管・使い方、正しい捨て方を守って安全に!～

『危険物安全週間』【期間】令和7年6月8日(日)～6月14日(土)までの7日間

危険物安全週間は、町民の皆様にも身の回りの危険物に関する知識の普及啓発及び各事業所における自主保安体制の確立を図ることを目的として毎年6月第2週に実施しています。

危険物安全週間は機会に身の回りの危険物の安全な取り扱いについて確認をお願いします。

○	スプレー缶は必ず使い切ってから捨てる (ガス抜きは通気性の良い屋外で)	○	直射日光の当たる場所や高温になる場所を避けてガソリンや灯油を保管する
×	中身が残ったままのスプレー缶をゴミに! →ゴミ収集車で火災発生!	×	ガソリンや灯油を高温になる所に放置! →タンクから噴出!
○	静電気除去シートに必ずタッチ! 正しい送り手順で	○	リチウムイオンバッテリーは、地域の回収方法を確認し、回収用のリサイクルBOXに持ち込む
×	静電気除去シートに触れずに給油! →給油中に火災!	×	リチウムイオンバッテリーをそのままゴミに! →火災が発生!

☎会津坂下消防署三島出張所 ☎ (52) 3032 FAX (52) 3033

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ「みしま通信」
で健康教室を放送中です。

6月は「フレイル part1」です。

ぜひご覧ください。

※フレイルとは、加齢によって、心身
が衰えた状態です。



☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

町からのお知らせ

ご寄附ありがとうございました(4月分)

ふるさと納税

- 渡辺典子様(新潟県)
- 村上房子様(福島県)
- 鳥毛啓美様(福島県)
- 青木亮輔様(東京都)

寄附件数 50件 計 405,000円

6月分納税のご案内

【納期限 6月30日(月)】

▼ 町県民税 (普通徴収) (第1期)

忘れずに納付してください。

☎ 町民課 町民係 ☎ (48) 5555

お悔み申し上げます

栗城節雄様(83才・宮下)

目黒彌作様(97才・宮下)

町の人口と世帯(5月1日現在)

人口	1,313	増減数	2	出生	0
男	665		-1	死亡	0
女	648		3	転入	8
世帯	671		2	転出	5

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

ひまわりサロン

6月16日(月)
午前10時から
町民センター

川井友愛サロン

6月16日(月)
午前10時から
川井集会所

サロンなごみ

6月18日(水)
午前10時から
西方ふるさとセンター

高清水・小山
いきいきサロン

6月20日(金)
午前10時から
高清水集会所

サロンないり

6月23日(月)
午前10時から
名入集会所

滝谷和楽塾

6月24日(火)
午前10時から
滝谷集会所

浅岐あったかサロン

6月24日(火)
午前10時から
浅岐集会所

ほがらかサロン

6月25日(水)
午前10時から
森の校舎カタクリ

桧原はつらつクラブ

7月1日(火)
午前10時から
桧原集会所



町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

栗城 雄一 様(宮下)

目黒 政寿 様(宮下)

☎ 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344



自然、ヒーリング、食を美坂高原で。

6月28日(土)

12時~21時30分

【会場】美坂高原

入場無料

- 美坂高原マルシェ 12:00~19:00
- CAMP 12:00~受付開始
- WORK SHOP 12:00~19:00
- アウトドア体験 12:00~19:00
- 移動本屋 12:00~19:00
- 望遠鏡づくりワークショップ 15:00~16:30
- 星空ヨガとクリスタルボウル演奏 19:30~20:30
- ナイトハイク 19:30~20:30
- 星空観望会 20:45~21:30

お申し込み・お問い合わせ先:美坂高原利活用イベント実行委員会事務局(三島町地域政策課内) 0241-48-5533

地方共生型社会こそ未来を生き抜く地域の在り方

No. 106

昭和45年の国政調査で、5年前と比較し、人口が17.2%も減少し、県下ワースト1位となった時、住民の間では「町が消滅するのではないか」という危機感が拡がり、当時の町長も非常に危機感を抱きました。

それから、職員はもちろん、有識者の方々が自主的に参加し、10年間にわたり山村の持続可能なあり方を議論した「三島フォーラム」が10回開催されました。

人口減少、高齢化、地域産業のビジョンの問題など、課題はさまざまあり、三島町は今後生き残れるのか不安でありましたが、フォーラムをとおして、これらの課題に皆で挑戦するため「見る前に跳ぶ」というためらわずにやってみる覚悟で、町政に臨むことになりました。

それは、都市と農村の交流を図り農家民宿の充実や特別町民制度による「ふるさと運動」、地域資源を活用した文化のさらなる振興や地域コミュニティの醸成による「地区プライド運動」、健康と農業の振興の確立のための「健康づくり運動」と「有機農業運動」。また、地域資源を活用した「生活工芸運動」に取り組み、この五つの運動を五徳の運動として町政に臨んできました。

これら運動を展開し、50年ほどが経過します。これらは「古くて新しい地域振興策」として、三島は誇りをもつて取り組んでおりますが、過疎や高齢化を克服するまでには至らず、結果を出せない状況にあります。しかし、これらは当時の過疎地域全体の市町村の理念の方向性であると確信しています。

今日は、出生率の低下、高齢化率の増加、世界各国の経済成長の不安定及び地域資源の枯渇による貧富差の拡大が招く、戦争不安の強い影響下にあります。

生活工芸運動では台湾との交流。福島県第一の景観地として、只見川第一橋梁を基盤とした観光強化。また、福島三大ブランド鶏の交流や日本で最も美しい村連合の交流など、只見川流域町村、会津地域の市町村の交流や外国までの交流を図りながら、地域循環共生圏・地域経済循環圏を築いていくことで、岡倉天心の「アジアはひとつ(ASIA IS ONE)」という精神に習い、「AIZU IS ONE」を指し、新しい地域共生の社会を創造し、地域の自治体の文化や伝統、また、地域資源を活かし、人口減少に立ち向かっていく時代に入っていると感じております。

三島町長 矢澤 源成